二〇七四年十二月二十五日

出勤してきたシンジョーは、いつも通り校長室に入ると、いつもの場所をタッチした。

壁面に本日の予定が映し出される。

九時　一学期終業式

十時　運動教室（水泳・鉄棒）

十三時　職員会議

十四時　六年念組かくれんぼ大会

九月に始まった一学期の授業は昨日で終わり。今日は登校してくる子はいない。終業式はオンラインであり、水泳教室はコナミスポーツ、鉄棒教室は市民体育館で行われる。だし午後に、六年念組の子が、学校に来る。扇小の恒例になっている、かくれんぼをするためである。

九時、シンジョーは校長室のパソコンで、次の三つのメッセージを扇小の子に発信した。

一つ目は、ドローンの安全な使い方についてである。最近、ドローンで遊びに出る子が増えてきた。車との事故やドローン同士の事

故、人や建物などにぶつかる事故が増えている。休み中は、特に注意するようにと話した。二つ目は、毎朝同じ時刻に起きるように話した。生活のリズムを乱さないためである。そして三つ目が、家の人とたくさん話をしてほしいということを話した。メールやオンラインではなくて、直接話をしてほしいと、強く話した。

十時から始まった運動教室には、三百人が集まった。水泳をするため、プールに来た子が二百十一人。鉄棒をするために市民体育館に集まってきた子が八十九人。シンジョーはこの運動教室のために、二人の方に来てもらった。水泳指導には、オリンピック金メダリストのネモトさん。鉄棒指導には、テレビ番組「佐助侍」で人気者になったナラマさんである。二人ともシンジョーの教え子なのだ。

どちらの教室でも、参加した子供たちがとても喜んでくれたそうだ。技能が高まっただけではない。運動の楽しさも味わってくれたようである。何と、授業が終わった後には、サイン会も開いてくれた。

二人とも忙しい中来てくれたので、子供たちが帰るとすぐに帰った。次の仕事に向かう

ためである。シンジョーは、市民体育館に来てくれたナラマさんを入間市駅まで送った。コナミスポーツに来てくれたネモトさんは、副校長が川越まで送っていった。

車の中でナラマさんが、シンジョーにこんな話をしてきた。

「シンジョーさん、相変わらず熱いですね。シンジョーさんは、逆上がりができない子と、毎朝いっしょに練習してましたよね。私もシンジョーさんの手伝いをしたおかげで、鉄棒のコツが分かったんです」

シンジョーはナラマさんを駅で降ろした後、コナミスポーツに行った。子供たちもネモトさんもいなかったが、社長に一言お礼を言いたかった。社長とは中学からの友達である。

社長と少し話した後、シンジョーは三十分ほどプールで泳いでいった。

十三時からの職員会議は一月から三月までの行事予定の確認だけだった。ほとんどの職員はオンラインでの参加である。どこにいるかを聞くことはしないが、画面からどこにいるのかが想像できた。ハワイにいる者、スイスの山でリフトに乗っている者、ベルーナド

ームにアレちゃんのライブを見に来た者、新幹線に乗っている者もいる。

十四時から始まる六年念組かくれんぼ大会は、いつもと少し違っていた。かくれんぼは、何年前からか六年生が毎年行っている。いつ始まったかは分からないが、かくれんぼを六年生がやるのは、毎年のことだ。シンジョーも子供の頃やったような記憶がある。

今年の六年念組は、百周年ということで、すごいことを考えてきた。隠れるのは家族なのだ。鬼は念組の子。この日のために、念組の家族は休みを取ったり、学校を欠席したりしてくれたそうだ。

シンジョーのもとに、本日の参加者リストがある。学校に入るので、参加届を送ってもらっている。

・・・・・

十二月二十五日

六年念組かくれんぼ　参加者

六年念組児童	三十一名
保護者	四十三名
祖父母	三十二名
兄弟姉妹	二十九名

計百三十五名

・・・・・・

十三時四十分。職員会議が終わろうとしているころ、体育館に人が集まりだした。上は八十七歳、下は四歳。百三十五人がこれから、この扇小学校でかくれんぼに参加しようとしている。

十四時。開会行事が始まった。念組の実行委員長が、ルールの確認をした。

「隠れるのは、この校舎内だけです。人の物には触らないでください。危ない場所も行かないで下さい。隠れる時間は三十分。それまで私たち六年念組は、体育館にいます。十四時三十分になったら、みんなで見つけに行きます。

見つかった人は、約束通り、校庭で落ち葉を五十枚拾ってから帰って下さい。

十五時十五分まで隠れていた人は、この体育館で表彰式を行いますので、ここに戻ってきて下さい。

最後に、鬼について説明します。私たち、六年念組三十一人の中で、鬼はたったの三人です。他の二十八人は鬼の「ふり」をして歩くだけです。『みーつけた！』と言え

るのは三人だけ。でも、それは誰なのかは、教えることはできません。」

実行委員の子が、何も見ずに、この説明をしたので、おじいさんやおばあさんは驚いてしまった。

「では、皆さん、隠れて下さい。三十分後に私たちが見つけに行きます。」

別の実行委員の子の言葉で、体育館から、百人を越える人が出て行った。

シンジョーは校内を回りながら、隠れる場所を楽しそうに探しているおじいさんやお母さんを見ていて、幸せな気持ちになった。手をつないで歩いている夫婦もいる。スーツを着ている若者は、誰かの兄なのだろう。確か、豊岡小で先生をしている人だ。

シンジョーは、これからこの幸せな人たちを探すことになる六年念組の子の顔を思い浮かべた。きっと、もっと幸せな気持ちで、学校中を探し回ることだろう。

肩組んで仲良く勉強しよう

大好きな大好きなこの学校で

シンジョーが歌いながら歩いていると、「しずかにして」という小さな子の声が聞こえた。